

ガリオア・フルブライト同窓会
2012年度第1回全国理事会

日時:2012年11月9日(金) 13:45~14:45

場所:日米教育委員会 事務局 会議室

東京都千代田区永田町2-14-2 207

【議題】

- 第1号議案 ガリオア・フルブライト同窓会の体制について
- 第2号議案 ガリオア・フルブライト同窓会の活動について
- 第3号議案 その他

【配付資料】

- 1. ガリオア・フルブライト同窓会全国理事会 P1
- 2. ガリオア・フルブライト同窓会全国理事会議案及び議事録(2008年度) P2-6
- 3. ガリオア・フルブライト同窓会全国理事会、各地区同窓会、財団・JUSEC 関係図... P7
- 4. ガリオア・フルブライト同窓会アンケート集計結果 P8
- 5. 東京フルブライト・アソシエーション活動状況 P9

【別添資料】

日本を救うために、日本を出よう

ガリオア・フルブライト同窓会 全国理事会

【現状】

1. 「ガリオア・プログラム」(GARIOA Program)

1949 年から 1951 年まで、「ガリオア・プログラム」(GARIOA/Government Account for Relief in Occupied Areas)で、1,000 名の日本人が米国へ留学した。

※日米教育委員会ホームページより引用。

2. 「日米フルブライト計画」に基づくフルブライト交流

1951 年サンフランシスコ条約が調印され、独立国同士の「日米フルブライト計画」が発足した。ただし、1952 年の留学生はフルブライト法に基づく準備が整わず、「日米フルブライト計画」と「ガリオア資金」と混合する留学となった。1953 年度から本格的な「日米フルブライト計画」に基づくフルブライト交流が始まった。

※「もうひとつの日米関係」 著者:近藤健より引用

3. ガリオア・フルブライト同窓会

1982 年、日本フルブライト交流事業 30 周年記念事業を機に、ガリオア資金とフルブライト交流事業で留学した同窓生が全国的な同窓会組織を結成した。全国でひとつの同窓会を作らなかったのは各地の独自性を尊重したからで、各地区同窓会の会長で構成される全国理事会が連絡調整機関となる緩やかな全国組織となった。

※「もうひとつの日米関係」 著者:近藤健より引用

4. ガリオア・フルブライト同窓会 全国理事会

毎年、東京フルブライト・アソシエーション役員会と総会の間に、「ガリオア・フルブライト同窓会 全国理事会」が開催されていた(1 時間程度の会議)記録がある。「ガリオア・フルブライト同窓会 全国理事会」の開始時期については不明であり、組織については以下のとおりである。(ガリオア・フルブライト同窓会会員名簿(1998 年度)より引用)。

●理事会理事 各地区同窓会会長が兼ねる

●会長&事務局 東京同窓会が兼ねる。

※参考資料として最後に開催された 2008 年度の議案と議事録を添付する。

【課題】

今後 2008 年度まで慣例的に開催されていた「ガリオア・フルブライト同窓会 全国理事会」を開催するか否かについて、以下の課題を検討。

- ・今後定期的で開催する場合の開催時期
- ・各地区同窓会の名称
- ・各地区同窓会の全国的な組織への展開
- ・全国同窓会としての活動の費用分担
- ・「NEWSLETTER」の配布範囲について
- ・日米教育委員会データベースと各地区同窓会データベースについて
- ・その他

2008年度第1回東京フルブライト・アソシエーション役員会
およびガリオア・フルブライト同窓会全国理事会

日時： 2008年4月17日（木）17：00～17：50
会場： 学士会館（本館）3階320号室

【次 第】

1. 東京フルブライト・アソシエーション役員会 17：00～17：20
 - (1) 会長挨拶（08/09年度役員担当業務の一部変更）
 - (2) 退任役員挨拶
 - (3) 2007年度決算（案）
 - (4) 2008年6月5日（木）フルブライト上院議員生誕100周年記念募金最終報告とお礼の会
 - (5) その他

2. ガリオア・フルブライト同窓会全国理事会 17：20～17：50
 - (1) 各地区同窓会活動報告
 - (2) フルブライト上院議員生誕100周年記念募金最終報告とお礼の会
 - (3) ヴィジョン委員会報告書

【資 料】

1. 08/09年度役員担当業務・賛助会員候補者
2. 2007年収支予算・決算比較表 (総会資料P.2参照)
3. 監査報告書 (総会資料P.5参照)
4. 2007年度決算・2008年度予算比較表 (総会資料P.3参照)
5. 決算推移 (総会資料P.6参照)
6. フルブライト上院議員生誕100周年記念企業・団体募金および第6回個人募金 (総会資料P.10-13参照)
7. 2007年度セミナー収支報告
8. 事務局長労働契約書

2008年度 第1回 TFA 役員会・全国理事会議事録

日 時：2008年4月17日(木) 17:00～17:50
場 所：学士会館（本館）3階 320号室
出席者：添付リストご参照

TFA 第1回役員会 17:00～17:20

【議題】

1. 会長挨拶（会長長坂健二郎）

定刻にいたり、会長長坂健二郎が開会の挨拶を行った。

2. 退任役員挨拶

退任役員 を代表して Hospitality 委員長太田隆次が挨拶を行った。

3. 2007年度決算(案)（事務局長大野熙）

07年度決算(案)について次の通り報告した。（総会資料 P.2 参照）

収入の部の会費については、目標予算 5,000 千円のところ、実績は 5,344 千円と予算を上回った。08年度への繰越は予算より 578 千円多い 15,641 千円となった。

フルブライト上院議員生誕 100 周年記念募金中間報告会（Foundation Liaison 委員長金田新）

フルブライト上院議員生誕 100 周年記念募金について以下のとおり説明がなされた。

企業・団体募金は（資料 P.8-9）、コミットメントベースで目標ラインを上回っているが、払込実績は 9 千 4 百万円で、目標を下回っており、このスピードでは目標 2 億の達成は厳しい。6 月 6 日（水）の中間報告会で再度発起人・実行委員等の皆様にお集まりいただき、募金活動の更なる活性化を期待したい。第 6 回個人募金（資料 P.8,P.10-11）についても、14 百万円台でフラット化が続いており、更なる努力が必要である。

以上をもって、TFA 第 1 回役員会の全議題は終了し、異議なく了承された。

【議題】

1. 各地区同窓会活動報告（各地区会長）

各地区同窓会会長より、以下の通り活動報告がなされた。

大阪地区同窓会（添付「大阪地区同窓会の活動報告」ご参照）

- ・ 会員が急減し、会員獲得に苦勞をしている。名簿を作成して会費納入者のみに名簿を渡すようにしたところ、会費納入率が上昇した。
- ・ 同窓会の活性化を図るべく、大阪同窓会の HP を作りたいと考えたが、単独で作成は難しい。TFA の HP に大阪同窓会の活動案内等をアップして欲しい（内容は大阪で作成）。
- ・ 会員の枠を同窓生のみではなく、その家族・友人にも広げ、会員の増員につなげたい。その意味で、名称を「同窓会」→「アソシエーション」に変更することを検討している。

東北同窓会

- ・ 最大の問題は新たな会員が増えないことである。会費 3 千円の納入率も悪い。概ね 60 歳以上の方が多く、若い方に会員になってもらうよう TFA からアプローチして欲しい。また、帰国者の名簿を提供して欲しい。
- ・ この 20 年間新入会員はなく、米国に対する関心が薄れているかもしれない。
- ・ 従来のように企業には頼れず、募金活動は厳しい状況にある。
- ・ 毎年 1 回同窓会を開催し、米国人フルブライターの支援をしている。

九州同窓会

- ・ 他地区同窓会同様、九州でも会員の高齢化が進んでいる。
- ・ 会費に関しては、毎年 1 回の総会開催の際に納入してもらっている。同窓会では、フルブライターを招いての講演や、あるいは自身（落合氏）の特許取得の話などを行っているが、高齢化の進展で、毎年 7～15 名程度しか集まらない。若いフルブライターはいるが、会員に入ってもらえない。
- ・ 九州はまとまりが強いので、役員若返りを図ることで参加意識を強めたい。（88 年、92 年、96 年には九州独自で奨学金を出していた。）
- ・ 年 1 回の総会だけでなく、同窓生の家族・友人にも理解してもらえる活動を考えていくべきだと考えている。

北陸フルブライト・アソシエーション

- ・ 会員数は 50 名たらずである。総会は隔年で開催し、その他の集まりを年 2 回開いている。隔年で、東京からどなたかをお招きして講演会を開き、何とか存続しているという状況である。
- ・ 企業募金がなかなかうまくいかず、他地区の方からアドバイスをいただきたい。

以上をもって、2007 年度全国理事会の議題は終了した。

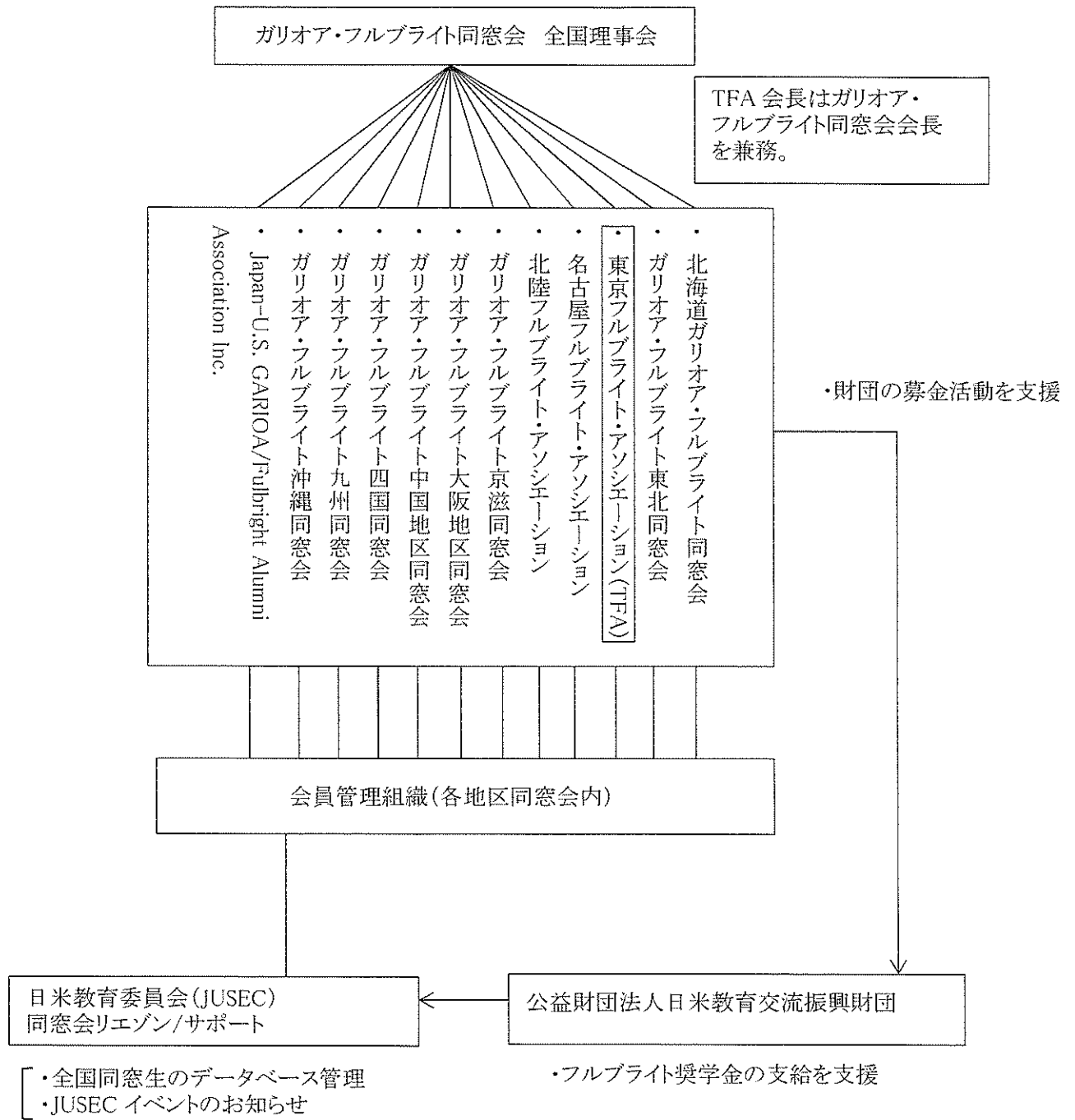
引続き、フルブライト・プログラム継続にむけての課題について、以下の議論がなされた。

- 企業にとっては募金に協力する大義名分がないと難しいため、例えば米国との関係が強い企業でないと難しいのではないかな。
- (2005/2006 年度フルブライト奨学生数各国比較より) 2 年前は米国・中国は 100 名以下であったが、現在 134 名となり、(日本・米国) 106 名を上回っている。
- 「毎年会費を納めるのは面倒」という声をよく聞く。会費納入率を上げるに当って、例えば、75 歳以上の方には 10 年まとめて納入する制度を設けてはどうか。
- 国際文化会館も会費の一括払い制度を設けているし、よいアイデアではないか。ビジョン委員会で議論してはどうか。
- 75 歳以上の方への会費請求を廃止するなどはどうか。
- 自動引落制度もあるが、当人の支払い意識が薄れることから、同窓会参加へのインセンティブが下がるのではないかな。大阪でも過去にまとめ払い制度をとっていたが、毎年支払いに戻した。
- TFA が 05 年度に会費目標額 5 百万円を達成できたのは、フルブライト上院議員生誕 100 周年の様々なイベントが開催されたことが大きく貢献している。イベントと会費納入率には正の相関性があり、このことを考慮すると、毎年払いがよいかもしれない。しかしその反面コストも増加するため、拡大均衡か縮小均衡かの選択をしなければならない。
- 今日、米国における日本のポジションは下降しており、米国からの大学院生の応募が減少している。対照的に、中国のポジションは上昇し、日本に対する関心をどのように高めていくかが今後のポイントではないかな。
- 米国の国策としてフルブライト制度を運用する観点から考えた場合、日本、西欧は卒業生の国、というポジションになってしまっている。しかし我々としては、教育上は継続して現状のミニマム数を維持していかなければならな

い。我々が募金活動を行い、政府資金を補充・維持していかなければならない。

- 昨年は日本→米国の留学生は 3 万 8 千人になり、トレンドとすれば減少しているが、心配するほど中国中心にはなっていない。まだまだ日本についてのプログラムは多くある。また、昨年まで IIE のプログラムであったものがフルブライトになったものもある。
- 米国の大学で、日本語を教えて欲しいという要望は高いが、十分な人数が集まらない状況もある。
- フルブライターとして、大学院で Ph.D コースに入る人が若干減っている。しかしその一方で、学部卒業の応募者とその枠がともに増加している。学部卒業直後の方がコストは低い。現行ルールではフルブライト・フェローとして留学すると、後にフルブライターとしては留学できなくなる。また、フルブライトの応募者は質的には全く落ちておらず、ジェットプログラム出身者が多い。(2005/2006 年度フルブライト奨学生数各国比較より) ドイツは依然として多いが、米国→韓国の 147 名のうち約 70 名は ETA である。伝統的にいうフルブライターは 70 名を引いた約 77 名である。
- ハーバード大学では日本人の雇用ニーズは強いが、日本人側の応募意欲が少なく、需要は満たされていない。

「ガリオア・フルブライト同窓会 全国理事会」、
 各地区同窓会、公益財団法人日米教育交流振興財団、日米教育委員会の関係図



東京フルブライト・アソシエーション活動状況(2011年度)

11.04.21(木)	フルブライト・プログラム 60 周年記念事業第 4 回実行委員会(於日米教育委員会(フルブライト・ジャパン会議室))
11.05.30(月)	フルブライト・プログラム 60 周年記念 第 1 回ファンドレイジング(募金)準備委員会(於日米教育委員会会議室)
11.06.13(月)	米国人ニュー・グランティーのための国会および最高裁判所見学ツアー [国会:江端貴子衆議院議員] [最高裁判所:寺田逸郎判事] [参加者]米国人ニュー・グランティー14名、関係者4名、合計18名
11.06.23(木)	2011 年度第 1 回東京フルブライト・アソシエーション役員会(於学士会館)
11.06.23(木)	2011 年度総会・講演会・懇親会(於学士会館) [講師]藤原 掃一氏(東京大学大学院法学政治学研究科教授) [出席者]会員・家族56名、招待者9名、合計65名
11.07.01(金)	第 23 回セミナー(於フルブライト・ジャパン会議室) [講師]寺島 英弥氏 河北新報社編集局編集委員 藍原 寛子氏 フリージャーナリスト・元福島民友新聞記者 [テーマ]「フルブライターがみた東日本大震災」
11.07.14(木)	フルブライト・プログラム 60 周年記念事業第 5 回実行委員会(於日米教育委員会会議室)
11.07.14(木)	フルブライト・プログラム 60 周年記念 第 2 回ファンドレイジング(募金)準備委員会(於日米教育委員会会議室)
11.09.29(木)	フルブライト・プログラムファンドレイジング(募金)準備会兼実行委員会(於日米教育委員会会議室)
11.09.29(木)	フルブライト・プログラム 60 周年記念事業第 6 回実行委員会(於日米教育委員会会議室)
11.10.07(金)	第 24 回セミナー(於日米教育委員会会議室) [講師]小泉 成史氏 フリージャーナリスト [テーマ]先進国で一番貧相な日本の科学系博物館
11.11.3-11.6 (木～日)	世界フルブライト・アソシエーション第 34 回年次総会(ワシントン D.C.) 本年度は不参加
11.11.23(祝)	第 9 回鎌倉ウォーキング・ツアー [参加者]米国人ニュー・グランティー・同伴者11名、会員・家族16名、計27名
11.12.01(木)	フルブライト・プログラム 60 周年記念募金 第 1 回実行委員会(於日米教育委員会会議室)
11.12.01(木)	フルブライト・プログラム 60 周年記念事業第 7 回実行委員会(於日米教育委員会会議室)
11.12 月	NEWSLETTER Vol.24 発行
12.02.03(金)	フルブライト・プログラム 60 周年記念募金 第 2 回実行委員会(於日米教育委員会会議室)
12.02.08(水)	フルブライト・プログラム 60 周年記念事業 第 8 回実行委員会(於日米教育委員会会議室)
12.03.18-20 (日～火)	日光・宇都宮・鳥山ツアー&ホームステイ [参加者]米国人ニュー・グランティー他10名、会員・家族2名、計12名
12.03.27(火)	2011 年度第 2 回東京フルブライト・アソシエーション定例役員会(於日米教育委員会会議室)

【参考】「NEWSLETTER」にかかった費用: 50 万円(そのうち郵送料は 11 万円)

発行部数:4,700 部(1部あたりの費用:@108 円)

発送部数:4,000 部